障害・差別もっと知って

宮城・大和 来月ドキュメンタリー映画祭

多様な生き方 6本上映

心身の障害や生きづらさを抱えた人々に焦点を当てたドキュメンタリー作品の「吉岡宿にしぴりかの映画祭」（実行委員会主催）が10月1、2の両日、宮城県大和町吉岡の「にしぴりかの美術館」で開かれる。家族の重度知的障害や障害者の結婚、障害者プロレスなど、多様な題材の計6本を1日3本ずつ上映する。

「Start Line」の一場面©Studio Aya

障害者差別解消法が4月に施行されたが、多くの人にとっては障害も差別もよく分かっていない。こうした問題意識から、NPO法人黒川こころの応援団の小野田豊代表を中心に、県内在住の映画監督や教員、福祉関係者らが実行委を結成。さまざまな生き方を映した6本を選んだ。

1日の「Start Line（スタートライン）」は、生まれつき耳が聞こえない今村彩子監督が自転車で日本縦断を目指す中で、ずっと劣等感を持っていた他人とのコミュニケーションに向き合うセルフドキュメンタリー。同作は29日に、仙台市青葉区の桜井薬局セントラルホールでも上映が始まる。

2日の「わたしたちに許された特別な時間の終わり」は、プロミュージシャンへの夢半ば27歳で自死した増田壮太さんを友人の太田信吾監督が生前追い続けた作品。死後のフィクションも交え、社会でもがく若者たちをリアルに描いた。

両日とも午前10時半に1本目の上映が始まり、合間に今村監督ら製作関係者のトークや座談会がある。

7月には相模原市の障害者施設で19人もの重度障害者が犠牲になる理不尽な殺害事件が起きた。小野田さんは「人間関係の理解は相手を知ることから始まる。自分が何を知らないかに気付き、何ができるかを考える機会になれば」と話す。

1回券1200円（当日1300円）、3回券3000円（同3300円）、6回券5500円（同6000円）。

実行委は運営資金とするため、インターネットのクラウドファンディングで小口寄付も募っている。

連絡先は小野田さん070（5011）0028。

河北新報

2016年（平成28年）9月22日（木曜日）